



編集発行人

鹿児島大学医学部附属保健婦学校
鹿児島大学医療技術短期大学部専攻科地域看護学特別専攻
鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻
同窓会(しおさい会)

事務局

〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1
鹿児島大学医学部保健学科
地域看護・看護情報学講座内
連絡先 会長 藤野 瑠美
電話 [REDACTED]

第18回 しおさい会 総会



会長
藤野 瑠美
(S 46年卒)



紅梅香る中、ウォーキングやジョギング等健康づくりをされる方々を多く見かけるようになりました。今年は寒暖の差が大きく、先日の大雪にはびっくりでした。皆様におかげでは、お変わりなくお健やかにお過ごしのことと思います。いつも、しおさい会にご理解とご協力を頂き感謝いたしております。

昨年8月、18回しおさい会総会が開催されました。近年にない多数の参加を頂いて、盛大に、かつ華やかな会になりました。ご出席くださいました皆様、誠に有難うございました。

今回は、恩師の山元郁子先生に講話「ひとすじに…」を頂き、先生の生涯保健師という心意気に触れる想いででした。皆様には学生時代の懐かしい教室風景が蘇つてこられたことでしょう。先生にはご負担をかけましたが、お引き受け頂いて本当に良かったと感謝しています。

私は都合により、今回の総会には出席できず、新塘副会長他役員の方々には迷惑かけましたが、チームワークが良く、素敵な会だったと、皆様から感想を頂き、嬉しく思っています。皆様のご協力ありがとうございました。

総会では、会費の運用について真剣にご検討頂きました。ご意見をもとに、「長期にわたり会費を納入頂けていない会員へは、会報の送付を一時取りやめ、その後に会費納入があり次第、会報の送付を再開すること」と致しました。その詳細な経過については、別紙にとりまとめ同封させていただきましたので、ご覧下さい。

会報を会員間の情報提供と親交を深めていくものとして、出来る限り、皆様方の近況を掲載していくことを考えてています。

今後ともご協力をよろしくお願いします。

最後になりますが、今年も皆様にとりまして、良き一年でありますように願っています。

別表
【収入】

平成25・26年度 決算書

(単位:円)

科 目	予 算 額	収 入 済 額	増 減 額	備 考
会 費	1,200,000	1,340,500	140,500	会費等(503名)
雑 収 入	15,000	23,029	8,029	利息、寄付等
繰 越 金	2,739,360	2,739,360	0	前期からの繰越金
計	3,954,360	4,102,889	148,529	

【支 出】

(単位:円)

科 目	予 算 額	支 出 済 額	差 引 額	備 考
会 議 費	1,000,000	706,216	293,784	総会、役員会、連絡委員会
研 修 費	100,000	28,150	71,850	研修会及びしおさいセミナー講師謝金
印 刷 費	400,000	199,806	200,195	会報「しおさい」、宛名シール 他
事 務 費	100,000	86,450	13,550	事務用品、会務手当
通 信 費	450,000	280,140	169,860	会報「しおさい」送料
振 込 手 数 料	50,000	47,682	2,318	
雑 費	100,000	119,757	△19,757	大学との連携 大学の行事出席
予 備 費	1,754,360	0	1,754,360	
計	3,954,360	1,468,200	2,486,160	

収 入 合 計 4,102,889円 (△減)

支 出 合 計 1,468,200円

差 引 残 高 2,634,689円

平成 27年 8月 1日提出

平成 27・28年度 予 算

(単位:円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減 額	備 考
会 費	1,200,000	1,200,000	0	入会金、会費
雑 収 入	15,000	15,000	0	利子等
繰 越 金	2,634,689	2,739,360	△104,671	前期からの繰越金
計	3,849,689	3,954,360	△104,671	

(△減)

(単位:円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減 額	備 考
会 議 費	1,000,000	1,000,000	0	総会、役員会、連絡委員会
研 修 費	100,000	100,000	0	研修会及びしおさいセミナー講師謝金
印 刷 費	300,000	400,000	△100,000	会報「しおさい」、宛名シール 他
事 務 費	100,000	100,000	0	事務用品、会務手当 他
通 信 費	400,000	450,000	△50,000	会報「しおさい」送料 他
振 込 手 数 料	50,000	50,000	0	
雑 費	100,000	100,000	0	大学との連携 大学の行事出席
予 備 費	1,799,689	1,754,360	45,329	
計	3,849,689	3,954,360	△104,671	

平成 27年 8月 1日提出

(△減)

しおさい会

会長 藤野 瑠美



H4 年卒生による「それが大事」に合わせたダンス
会場も一体となって楽しみました

S52 年卒生のピンクレディ達
「UFO」を踊り終え松下先生と

懇親会の一場面

しおわて会研修会

講師 元鹿児島大学医療技術短期大学部専攻科地域看護学特別専攻
山元 郁子氏 (S23年興健女子学院卒) 教授

テーマ「ひとすじに」

山元先生ご講演要旨



「四つの窓」を見開き、幼少期から学生時代、保健婦・教員時代、さらには退職後から現在に至るまで、その思いを語つていただきながら、私たちはしばしの時間旅行へと誘われた。

◆幼少期～興健女子学院時代

暮らし始めた。幼少期には家庭が裕福な時期もあつたが、女学校時代は百姓一揆などの影響を受けて一転して苦しい生活を強いられた。太平洋戦争の真只中、近くで機銃掃射を受けるなど多くの恐怖も味わつた。保健婦学校への進学は教育熱心だった両親や保健婦不足を論じる新聞記事、当時の女学校教師からの勧めによ

「(初恋の話なんて) まだ私がいませんよ、みんなの前で。ねえ
そうでしょう?」

『先生の語り』 メモ

昭和四年 五人兄弟の長子として大分県で生まれた（世界大恐慌の年ですね、と先生が壇上で微笑まれる）。四歳のときに入来（現：薩摩川内市

り決意した。昭和二一年、興
健女子学院に入学。開業助産
所での実習では牛の背に道具
を載せて山を越え、吾平（現
鹿屋市吾平町）の農村保健婦
の実習では住民の中に入り家
庭訪問や健康教育を行つた。
吾平で実習中、お風呂に歩い
て向かう私の姿が幻のごとく
見えたことから、あだ名で『幻
（げん）ちゃん』と呼ばれるよ
うになつた。友人や先生方、
地域の方々との記憶を様々に
思い出す。

◆鹿児島県の保健婦時代

に受け入れるようになつた老人との会話、実習生と向かつ

昭和二四年に鹿児島県に入職。川内保健所を皮切りに、宮之城、出水保健所で一四年間にわたり保健婦業務に従事した（当時、駐在保健婦の経験も積んだ）。小さな麦薺の家に一人暮らしをさせていた結果老人、保健婦の訪問を徐々

に受け入れるようになつた老人との会話、実習生と向かつた家庭訪問での出来事（届け出に沿つて一子の未熟児訪問に向かうと実は双子であつた。）当时、双子が生まれた際に一子として届出る家庭も少なくなかつた）など、印象的なケースが思い出される。どんな支



記念すべき第1回公衆衛生学会での発表の様子（研修会使用写真）「移動保健所」に関する報告をなされたそうです



ご講演の様子

大切に保管されていたアルバムの多くを紐解いていただいた

援が一番良いのか悩みながらただいた。結婚、出産、子育ての時期でもあった。仕事中に緊急の連絡が家族から入ったことがあり、急いで駆けつけると息子が井戸に落ちたのだという。息子の面倒を見てくれていた実妹が井戸に飛び

込み助けてくれた。結果としてケガもなくよかつたが、苦い思い出である。

「(当時) 雀のお宿みたいな軒家のある麦藁の家に行って、その方と結核の話をしゃって、その時の私の感覚は『この方がパン食をするつてなんですか?』と思つていて。そ

れで立派な教員時代は八年から教務主任として働き始めた。当時は、学生の住まいを探しからが仕事であつた。振り返つてみると、入学した学生たちが刺激となり、一人ひとりの優秀な学生とのかかわりがあつたおかげで今日まで来ているのだなあとつくづく感じる。一方、着任早々から大学昇格に向けて教職員共々奮闘した日々でもあつた。事務室の戸棚には「四年制大学」という黒拍子の綴りが置かれていた。(学校の)記録を残しなさいとの松下敏夫先生からの助言が「保健学習のあゆみ」の作成や自身の論文作成へつながった。一丸となつての努力が実り、昭和六年に医療技術短期大学部、平成元年には医療技術短期大学部専攻科の設置に結びついた。それができだ。学校長等からの熱心なご支援、同窓会有

声をかけられ詩吟や川柳、茶道や能楽など様々な挑戦した。自分の体験や社会情勢を通じて、地域看護について考え続けてきた。今は生

◆退職されてから今、そしてこれからへ向けて

『先生の語り』メモ

て。ありがとう」「しおさい会発足時の様子について」このときね、みんな燃えていました

◆退職されてから今、そしてこれからへ向けて

『先生の語り』メモ

て。ありがとうござます。そのケースケース、その時々に、その人が考え、自分の足で歩く

『先生の語り』メモ

「ここまで来たのはですね、本当にいろんな人と出会って。みなさんのおかげなんですよ。みなさんのが刺激をくださって、その時その時に正面から向き合ってきたからこそだと思っています。そのケースケース、その時々に、その人が考え、自分の足で歩く」

先生の生きざまに、保健師の本質を見せていただきました。改めまして、この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

「第18回しおさい会総会に参加して」



「マルチでゆかいな仲間たち」

檜室 美恵子(S51年卒)

平成二十七年八月一日、「しおさい会」総会に還暦組の私たちが集いました。実は前日から城山観光ホテルに宿泊し、同窓会を行つていたのでした。

三十八年前、卒業した私たちはそれぞれに自治体保健師、産業医の妻として病院経営、ある人は別の大学に入りなおして大学勤務、看護部長から大学教授、保健師を退職しても母として妻として頑張っている人、一つの自治体の保健師職を全うした人、さまざまなかつたのであります。それでも同窓会で出会つてしまふと、一気に昭和五十一年にタイムワープ、思い出話に花が咲き、ガールズに大変身、歌つたり踊つたり年齢もぶつこんでしまいます。

私たち十六回生の同窓会は、ご当地幹事型、鹿児島県のみならず、熊本、福岡、山口、埼玉、次はどこでやろうかと、仲間の誰かが住んでいる場所を選び、二、三年後を目安にそこに住んでいる人が幹事です。同窓生だ

業保健師、病院の看護師、養護教諭などさまざまな分野に、日本各地に散つていきました。その後年月が過ぎた同窓会で、ある人は政治家の妻、ある人は開業医の妻として病院経営、ある人は別の大手に入りなおして大学勤務、看護部長から大学教授、保健師を退職しても母として妻として頑張っている人、一つの自治体の保健師職を全うした人、さまざまなかつたのであります。それでも同窓会で出会つてしまふと、一気に昭和五十一年にタイムワープ、思い出話に花が咲き、ガールズに大変身、歌つたり踊つたり年齢もぶつこんでしまいます。

けでなく、子ども、親、姉妹、叔母さん等も参加OK。ちょっとした小旅行となります。

参加率は五十%くらいだけれど、子どもさんは同窓生の一部になつたような感じで、お互に楽しめます。

大事なことを言つておかないと。私たち十六回生は山元先生がとつてもとつても大好き。今回も山元先生のお話を聞きたくて集まってきたといつても過言ではありません。同窓会で集まる

けでなく、子ども、親、姉妹、叔母さん等も参加OK。ちょっとした小旅行となります。

私も、福岡県八女市において、定年退職をいたしましたが、再任用していただき、地域包括支援センターで保健師職を続けています。

時代は流れ、世の中はどんどん



おそろいのコスチュームもバッヂ
「ハイサイおじさん」を踊るS51年卒の皆様

「そんなことあつたの、知らなかつたあ。」ということもまだまだお元気な姿を拝見し

「第18回しおさい会に参加して」

厚生連健康管理センター
上門 麻紀(H27年卒)



しおさい会は私が保健師を目指すきっかけの一つでもあります。初めて参加したのは学生の頃で、その時の先輩方のパワフルな姿や保健師として働く話を聞いて保健師の仕事の魅力を知ることができました。

そして今回は保健師として、このしおさい会に参加できることを嬉しく思います。また、今回参加して、その規模の大きさに驚きました。第一期生の先生

のような場を通してずっと繋がつていられるのだと実感できました。しおさい会は世代を超えてそれぞれの思いを共有でき、そして保健師としての自分を振り返ることのできる場、先輩方の思いを受け継ぐ場、そして保健師としての軸を再確認できる素敵な場であると思いま

す。私は保健師として働いてまだ年目であり日々目の前の仕事をこなすことで精一杯ですが、このしおさい会で学んだ保健師として大切なこととして、まず「一人一人としっかりと向き合うこと」を大切にしていきたいと思いました。そして、先輩方のように誇りを持つて保健師と言えるよう日々努力していきたいで

ん変わつていきますが、鹿児島で培われた保健師魂と仲間たちとの絆は永遠に不滅です。

先輩も後輩も、自分の内にあるマルチな才能をどんどん開花させていくほしいと祈りつつ、この原稿を書かせていただきました。

「しおさい会に参加して」

看護学専攻4年生

田中 英里



今回、しおさい会総会・懇親会に学生四名で参加させて頂きました。終了後、学生の感想は全員一致で「保健師さんつて元気！」でした。先輩方から元気を貰い、生き様を学ばせて頂いたような気がします。同時に、同窓生という人と人の繋がりの素晴らしさを感じる機会となりました。

山元先生の講演では、パワフルに生き続ける保健師精神に驚くと同時に、ひとりの人としての憧れを感じました。

懇親会でも長年保健師として様々な現場で活動されてきた先輩方のお話しを聞くことができ、職場背景や時代背景の違いはあっても根本にある人や地域、その繋がりを大切にする思いと人を巻き込んでいくエネルギーは変わらないことを学びました。今年から十五名の選択制になつたことも

初いたことや、愛を叫ぼう！自分を表現しよう！という先生達の雰囲気にも圧倒されました。同時に、同窓生という人との繋がりの素晴らしさを感じる機会となりました。

山元先生の講演では、パワフルに生き続ける保健師精神に驚くと同時に、ひとりの人としての憧れを感じました。

懇親会でも長年保健師として様々な現場で活動されてきた先輩方のお話しを聞くことができ、職場背景や時代背景の違いはあっても根本にある人や地域、その繋がりを大切にする思いと人を巻き込んでいくエネルギーは変わらないことを学びました。今年から十五名の選択制になつたことも

あり、懇親会の中では保健師教育の話題が多く語られていました。振り返ってみると、地域の授業の度に結局答えは？保健師つてなんだろう？とモヤモヤを抱え選択さえも迷っていた自分が当



城 裕可里(H26年卒)
人吉保健所

保健師志したきっかけ

私は中学生の頃から保健師になるのが夢でした。きっかけは母が、「将来は保健師が合うんじゃない？」と勧めてくれたことです。役

今では、資格や学問としてまだけでなく、様々な出逢いに恵まれ貴重な体験をさせていただき、鹿児島大学で地域を学ぶことが出来て良かったと感じています。

私は四月から県外の大学病院で看護師として働く予定ですが、いづかは地元鹿児島で

保健師として働いてみたいと実習、特に離島実習をとても楽しみにしていることを思い出します。

就職してから

そして私はいま、地元でもある熊本県の人吉保健所で働いて二年目になりました。管内は10市町村あり、市房山や球磨川など自然が多く、鹿児島県や宮崎県に隣接する地域です。交通の便も悪く、いわゆる田舎ですが、この地域の方言でもある球磨弁を話す住民の方々はとてもあたたかい人ばかりでとても大好きな地域です。職場では難病関係、母子・療育関係を主に担当しています。どの業務をする



城さん(H26年卒 左から2番目)
熊本県保健師の同期とともに

の連携は欠かせないことだと常に感じています。地域を支えるのに一人の力では微力ですが、連携することで大きな力となり、変えていけることができると思うからです。

これからの夢

私は、就職して仕事を聞かれることが多いになりましたが、「保健師をしています」と答えたときに、ピンと来てもえないことがとても悲しく、残念に思います。住民の方のすぐ近くにいるつもりですが、あまり認識されていないと感じます。地域に出向いたときには思い出してもらえるような存在になりたいです。そうして、住民の方が健康や生活に関する悩みがあつたときに保健師へ相談することで、解決へ向かっていって欲しいと思います。これからも保健師といふ仕事を誇りに思い、真摯な姿勢で皆さんと連携を取りながら、地域を支えていきたいです。

職場紹介

川薩保健所
昭和61年卒 上園 千鶴
平成24年卒 松永真里江

川薩保健所は、県内で最初の保健所として昭和13年に設立され、その後、保健所の統廃合等を経て、現在は薩摩川内市及びさつま町を管轄しています。鹿児島県の西北部に位置し、管内を横断する九州三大河川の一つである川内川や国定公園に指定された甑島列島などを有する、自然豊かな土地柄です。平成26年10月1日現在で、人口一二九、四一〇人、五一、三五三世帯、年間出生数九六三人、高齢化率30・5%となっています。

また、当保健所は、北薩地域振興局保健福祉環境部としての看板も持ち、出水保健所と連携協働しながら、2つの保健医療圏域（川薩圏域、出水圏域）の業務も行っています。

保健師は、健康企画課に9名、地域保健福祉課に3名、計12名が配置され、しおさい会会員も多くいます。また、若い保健師も多く、薩摩川内市のはんや祭りで踊り連に参加したり、さつま町のほたる鑑賞をしたりと和氣あいあいとした職場です。

業務内容としては、健康企画



川薩保健所は、県内で最初の保健所として昭和13年に設立され、その後、保健所の統廃合等を経て、現在は薩摩川内市及びさつま町を管轄しています。鹿児島県の西北部に位置し、管内を横断する九州三大河川の一つである川内川や国定公園に指定された甑島列島などを有する、自然豊かな土地柄です。平成26年10月1日現在で、人口一二九、四一〇人、五一、三五三世帯、年間出生数九六三人、高齢化率30・5%となっています。

今後も地域の健康課題を分析し、広域的に市町への支援を行ない、関係機関と一緒に健康づくり、まちづくりに取り組んでいこうと思っています。

川薩保健所は、県内で最初の保健所として昭和13年に設立され、その後、保健所の統廃合等を経て、現在は薩摩川内市及びさつま町を管轄しています。鹿児島県の西北部に位置し、管内を横断する九州三大河川の一つである川内川や国定公園に指定された甑島列島などを有する、自然豊かな土地柄です。平成26年10月1日現在で、人口一二九、四一〇人、五一、三五三世帯、年間出生数九六三人、高齢化率30・5%となっています。

月に1回開催している保健師連絡会では、係や課を超えて横断的に業務の情報交換や事例検討を行うなど、相談・助言がもうまいやすい環境です。

課では医療連携体制づくり、結核対策、難病対策、母子保健、在宅医療の推進等を行い、地域介護事業所への指導等を行っています。更に、当保健所の特色として、川内原子力発電所を管内に有することもあり、原子力防災訓練への参画や県地域防災計画に基づく安定ヨウ素剤配布に関わる業務等の健康危機管理も重要な業務となっています。



新入会員紹介

平成27年 鹿児島大学医学部保健学科 看護学専攻卒業生 しおさい会入会者

役員会からのお知らせ

- 平成22年度を起点として、会費未納期間が継続して6年以上の方には、会報の送付を休止いたします。
- 会員としての資格は継続されますので、会費が納入された時点から、会報は送付いたします。ご理解ご協力をよろしくお願ひいたします。
- 長年の懸案事項でした『同窓会のホームページ』立ち上げに取り組みます。同窓会員の皆様、地域看護学講座の先生や学生さん、お世話になった先生方と「つながる」、元気の源となるプラットホームを目指しています。ホームページに関するご要望等は、森先生へ

編集後記

第18回総会には多くの皆様のご参加ありがとうございました。皆様の笑顔に私もパワーを頂きました。また、会報に寄稿頂いた皆様ありがとうございました。（文責 田中）

第7回しおさい会セミナーご案内 「地域看護の醍醐味」

講師 交渉中

日時 平成28年5月14日(土)
10:00~12:00 (受付9:30~)
場所 鹿児島大学医学部保健学科
教育棟4階実習室

多くの会員の皆様の参加をお待ちしています。
参加希望の方は5月2日までに表紙の事務局まで連絡下さい